

小学校英語活動の進め方～知っておきたい『10の原理・原則』～

1 学校として共通化 《学校体制の中での取組》

……(ここに総合的な学習の時間や国際理解教育との関連はありますが)

英語活動の目標(ねらい)
英語活動で目指す子どもの姿
カリキュラム等

⋮

これらの段階においても、系統立てて
考えていかなければならないことがら
多くある。
ただ、今回については、割愛する。

2 指導方法

英語活動とって特別視しない (小学校の教科領域のなかの一つ)

多種多様な指導方法

… よりよい指導方法を求めて互いに学び合う

指導方法の共有化(学校全体で) 簡単(準備が簡略・学級担任が実施可能)
積み上げられた実践に裏打ち(楽しく身に付く)

たくさんありますが、とりあえず最重要事項(基本中の基本)を10項目集めて…

原則 「英語活動の構成の原則」

……Plan Backward の考え方で!!

- 英語活動の流れを知る(教師も子どもも)

Warming up INPUT INTAKE (OUTPUT)
ASSESSMENT

原則 「言語材料の配列の原則」

- 1時間の中で取り扱う新出言語材料」= 5~7単語
……INPUT段階から取り扱う(時間内に身に付けることができるようにする)
- 文(Sentence)や句(Phrase)はINTAKEの段階で、繰り返し使うことで
身に付けさせていく(長いスパンの中で繰り返す)

原則 「INPUTの原則」(その

- INPUTの六原則

1)

- Using visual (カード・実物・写真……)
- s (Variation…スピード・回数)
- Repetition
- Same Order (Native Speakerがベスト…音声教材の活用)
- Modeling (動作を伴って)
- Movement (チャンツ等…)
- Rhythm

原則 「INPUTの原則」(その2)

- 音 (Pronunciation)と効果的に結びつける
 - 動詞はMovement(Jesture)が効果的
 - 3音節はチャンツに不向き …………… などなど

原則 「NTAKEの原則」

- アクティビティーは、「スモールステップ」で構成し「フィードバック」をいつも念頭に置いておく

原則 「NTAKE~ Getting it~ の原則」

- 教師や友達と一緒に(Speakingをとまなう)活動
 - …… 間違ふことや言えないことは、当然という学級の雰囲気が大切
 - …… 助け合ったり、教えあったりしながら進めることが大切
 - …… 個々がSpeakingをするのは、Getting itの最終段階で (チェック・支援できる体制を組めることが望ましい)

- 「易」から「難」へスモールステップで構成
 - …… 「Listening」「Speaking」の効果的な配列

原則 「NTAKE~ Using it~ の原則」

- 「易」から「難」へスモールステップで構成

Scaffolding & Small Step

…… 「Listening」「Speaking」の効果的な配列

- 「個」が活動する場面を意図的に設定
- バランスの良いアクティビティーを配列 (8 Intelligencesを視点に)
…… かたよったアクティビティーの積み上げは、子供たちのバランスのとれた英語力につながらない
- Weak studentsへの配慮

原則	「OUTPUTの原則」
----	-------------

- 無理なく、設定が可能な時にOUTPUTを位置付ける
- OUTPUTの四要件

原則	「ASSESSMENTの原則」
----	-----------------

- 見取りの観点～どの場面で、どのような観点で～ 評価規準へ
- INPUT・INTAKE段階の確かなASSESSMENTが「フィードバック」へ

原則 原則」	「TT(チームティーチング = ALTの活用)の原則」
-----------	-----------------------------

- HRT(ホームルームティーチャー)主導の英語活動
- 役割分担の明確化